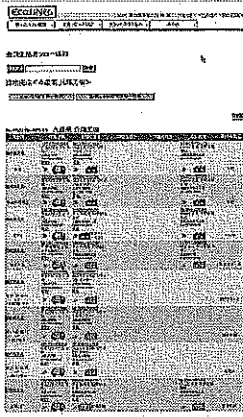


明治乳業

# 廃棄物管理を強化

## 委託後の過程まで把握

明治乳業は事業所で発生する廃棄物の管理体制を強化する。管理に使っている情報システムの機能を拡充し、二〇〇八年度内にはグループ全体で運用を開始する。産業廃棄物管理票(マニフェスト)の運用を効率化するほか、全球測位システム(GPS)を使って廃棄物を運搬する車両の経路を確認する。廃棄物減量化の取り組みに加え、処理過程をより正確に把握することで、不法投棄などの防止につなげる。



共同廃棄物管理システムと改良した管理システム

廃棄物データ分析システムは〇五年度から運用を開始した。全事業所や残さ、汚泥、廃プラスチック、段ボール、紙パツクなど十三種類に区分し、その量や処理費用、リサイクル率を毎月集計している。

環境関連システム開発を手掛けるイーコス(東京・中央)と共同でシステムを改良した。新たに、廃棄物処理事業者との業務委託契約の管理強化、GPS車両

管理強化などの機能を付加した。本体の工場などでは今四月から新システムが稼働、〇八年度内には全事業所やグループ会社でも運用する。

マニフェストの管理を徹底するため、電子化やデータベース化などをしてきた。さらに、処理事業者との業務委託の契約書を電子ファイルで閲覧できるようにしたほか、契約書や許認可証の有効期限を告げるアラーム機能などを付けた。GPS車両

はまず関西工場(大阪府貝塚市)で実験中だ。車両のたどった経路の情報をシステムに蓄積し、定期的にチェックする。新システム導入により、廃棄物をどの事業者がどつりサイクルしたかなどの情報が社内ですぐに把握できるようになる。従来は廃棄物が工場

を出た後は委託先に任せられ、管理しきれない側面があった。

明治乳業は製造工程で出る食品残さなどを発酵させてバイオガスとして燃料に利用するなど、廃棄物減量化に取り組んできた。〇六年度には十二工場のリサイクル率九八%以上を達成している。